

音楽科の授業創造プラン（平成28年度）

	児童の実態と課題	授業創造プラン	実践記録	成果と課題
3年	<p>○一人で表現することに抵抗がない児童がほとんどで自己表現ができる。(関・意・態)</p> <p>●どのように演奏したい、歌いたいという思いをもって表現できる児童は各クラスに1/3ぐらいである。(表現の工夫)</p> <p>○リコーダーの学習には意欲的で、逆手児童は1学期中にいなくなった。タンギングが不明瞭な児童が各学級に3名ほどいる。(技)</p> <p>●頭声発声で歌うことに意欲的であるが、音程が不安定になる児童もいる。(技)</p> <p>●階名指導は1学期継続して、各クラス残り1、2人ずつぐらい定着してない児童がいる。(技)</p> <p>●鑑賞の学習ではまだ書いて表現することは難しいので発言を聞き取っている。(鑑)</p>	<p>・とても良い点なので常時活動として一人で歌ったり演奏したりする時間を設ける。</p> <p>・いつも楽曲を表現するときに、「どんな感じの曲か?」「どう表現したいか?」ということを問いかける。</p> <p>・あまりできないことを追い求めず、いつかできるという声掛けをしながら個別に見る時間をつくる。</p> <p>・教師が近くで歌ったり、正しい音程で歌えている児童の近くに置いたりする。</p> <p>・2学期以降も継続して指導をする。</p> <p>・発言と同時に少しずつ書く学習も取り入れ、自分の考えを書ける児童を育てる。</p>		
4年	<p>○音楽活動に興味関心が高い児童が多く、一人での表現活動には引き続き意欲的である。(関・意・態)</p> <p>●表現の工夫は各学級によりバラつきがある。(表現の工夫)</p> <p>○リコーダーの学習は3年生の頃より継続して意欲的に行っており、技能も身に付いてきた。(技)</p> <p>●音程が正しく取れない児童が数名いるが少しずつ直ってきている。音程は合っているが地声の大声で歌う児童がまだいる。(技)</p> <p>○鑑賞の学習に大変意欲的で、自分の考えを言葉で表現できる児童が増えてきた。(鑑)</p>	<p>・1学期に指揮の学習をし、どの子も皆の前で堂々と指揮を振ることができた。2学期以降の学習でも取り入れていく。</p> <p>・2学期以降、グループでの創作活動を学習に取り入れ、それぞれの創意工夫が表れるように授業展開を工夫する。</p> <p>・1学期に身に付けて技能を2学期以降も持続・向上できるよう常時活動としてリコーダーを入れる。</p> <p>・地声で出せないキーに設定して歌い、裏声を出すことに慣れさせる。</p> <p>・伸びてきた点なので2学期以降も継続して指導する。</p>		
5年	<p>○学級替えをしたがどちらも落ち着いて学習ができる雰囲気である。特に歌唱活動に意欲がある児童が多い。(関・意・態)</p> <p>●男女誰とでも仲良く学習できる児童とそうでない児童がいる。(関・意・態)</p> <p>○楽曲をどのように表現したいかについて自分の思いや意図をもち、それを表現できる児童が多い。(表現の工夫)</p> <p>○歌唱は1組には力強さが、2組には柔らかさがありそれぞれ良さがある。(技)</p> <p>●書く活動を取り入れると個人差が大きい。(鑑)</p>	<p>・今後も歌唱に力を入れ、連合音楽会や卒業式に向け愛唱歌を増やしていく。</p> <p>・学び合いの場の設定(二人組、グループ学習など)を常時もち、高め合える姿勢をつくる。</p> <p>・1学期で行ったグループ活動での内容を2学期以降の学年での活動にも生かしていく。</p> <p>・それぞれの学級の良さを相乗効果として高めるために学年で歌唱に取り組む。(連合音楽会、卒業式など)</p> <p>・書けない児童には何について書か、少しずつ課題を与えていく。</p> <p>・グループ学習や練習の際に、必ず男女が混ざるようにグループを作る。</p>		
6年	<p>○明るく活発な雰囲気がどちらの学級もあり、生き生きと学習できている。昨年の連合音楽会や卒業式で合唱をしたことが大きな自信となっており、さらに歌唱活動に意欲的である。(関・意・態)</p> <p>○男女分け隔てなく仲良く学習できる雰囲気がとても良い。(関・意・態)</p> <p>○どのように楽曲を表現したいか、自分の思いや意図をもち、それを伝えたり表現できたりする児童が多い。(表現の工夫)</p> <p>●リコーダーの技能がないわけではないが自発的に練習できない児童が各クラス1名ほどずついる。(技)</p> <p>○概ね自分の思いや考え、感想を書ける児童が増えてきた。(鑑)</p>	<p>・常時活動や卒業式の練習の中で愛唱歌を増やす。</p> <p>・男女が混ざってグループで学習できる場面を設定する。</p> <p>・楽曲に取り組む中でそれぞれの思いや意図を拡大譜に書き込み、自分たちの思いをもって表現しているということを視覚化する。</p> <p>・一人で練習するのではなくペアやグループで取り組むようにする。</p> <p>・今後も継続して書く活動を取り入れる。</p>		